Tue 電炉・スクラップ・技術・環境・エンジ

Electric furnace Scrap Technology Enviroment Engineering

近畿工業

三木工場の事務所刷新

テスト棟 見学者増 受入れ体制強化

破砕機・選別機メーカー大手の近畿工業（本社＝神戸市、和田直哉社長）はこのほど、主力製造拠点の三木工場（兵庫県三木市）の事務所棟を全面リニューアルした。雑品スクラップの国内処理ニーズが高まる中、デモ機などを設置するテスト棟への見学者が増えていることから、外部からの受け入れ体制を強化する。

同社では全国納入トップシェアの二軸せん断式破砕機のほか、金属リサイクル業界から評価の高い「スーパーシュレッダー」「V―BUSTER」などを製造。2014年に同工場内に開設した「近畿メカノケミカル研究所」では、最先端のリサイクル技術の研究・開発を進めている。

同工場内には全天候型の破砕・選別テスト棟があり、同社が製造・販売する「スーパーシュレッダー」を含めたリサイクル処理設備約30種類を設置。金属リサイクル・産業廃棄物関連企業が実際に処理したいサンプルなどを持ち込み、同社の「砕く・剪（き）る・選ぶ」という技術を実際にテストできる。

雑品スクラップなどの処理困難物の国内処理に向け、デモテストや同社製品に対する引き合いも年々増加しており、新事務所棟では会議室や応接室を拡充。製品の販売拡大にもつなげたい考えだ。

全面リニューアルした三木工場の事務所棟

異形棒鋼各地区概況 11月

中部、引合い増加見通し

全国小棒懇談会

全国小棒懇談会はこのほど、2018年11月時点の異形棒鋼に関する需給、価格動向などをまとめた。各地区の概況は次の通り。

【北海道地区】

9月の建築着工床面積は前年同月比18％マイナスで、このうちRC造は同23・4％マイナス。また、新設住宅着工戸数は同13・7％マイナスで、このうち、新設マンション着工戸数は同101％プラス。荷動きについては冬期不需要期を控え落ち込み始めている。

【東北・信越地区】

9月の建築着工床面積は前年同月比8・7％プラス、このうちRC造は同53％プラス。また、新設住宅着工戸数は同4・6％マイナス。引き合いは様子見状況となり低調。10月の出荷は8月の猛暑、9月の悪天候の反動で好調だった。

【関東地区】

9月の建築着工床面積は前年同月比14・3％マイナスで、このうちRC造着工床面積は同17・7％マイナス。新設住宅着工戸数は同1・4％マイナス、このうち新設マンション着工戸数は同16・2％プラス。荷動きは依然として好調を継続している。

【中部地区】

9月の建築着工床面積は前年同月比12％増となり、このうちRC造着工床面積は同5％増。新設住宅着工戸数は同0・02％減、このうち新設マンション着工戸数は同2％減。ゼネコンは様子見当用買いの状況。一方、供給のタイト感から前倒しの発注も出始めており、今後の引き合いは増加の見通し。

【関西地区】

9月の近畿圏における建築着工床面積は前年同月比8・1％増、新設住宅着工戸数は同10・5％増、このうち新設マンション着工戸数は同25・6％増。新規の引き合いについては小口当用買いが中心。荷動きも落ち着いているが、ベースの在庫が非常に少なくなっておりタイト感が出ている。

【九州地区】

九州、沖縄における9月の建築着工床面積は前年同月比2・3％減で、このうちRC造着工床面積は同12％減。新設住宅着工戸数は同4・5％減、このうち新設マンション着工戸数は同39％減となった。四半期（7月―9月）の合計でも各指標が前年同期比でマイナスで、先行きの鋼材需要動向について懸念されている。

「三能物産」始動へ

三衆物産が設立調印式

三能物産設立調印式のもよう（左から張董事長、水谷社長、池董事長）

大手金属リサイクル企業、三衆物産（本社＝千葉県船橋市、水谷純社長）は21日、東京都墨田区の東武ホテルレバント東京で、雑品スクラップ加工事業を行う合弁新会社「三能物産株式会社」の設立調印式および設立記念パーティを開催した。

三衆物産は、茨城県鉾田市の工業団地内で建設を進めている大型施設・リサイクルパーク内で雑品スクラップ加工事業を行う合弁会社を2018年12月に設立する。このため、合弁パートナーの中国リサイクル企業である浙江海能金属の池宏峰・董事長、浙江長青再生資源の張志祥・董事長とともに21日、調印式を執り行った。

設立調印式での質疑応答による一問一答は次の通り。

雑品スクラップ加工

中・長期で月1万トン目標

高水準の収益確保確信

――合弁新会社設立にあたっての抱負と加工数量目標はどうか

水谷社長「月間加工数量は当面4000トンを目指し、中・長期的には1万トンを目標にしていきたい。雑品スクラップのリサイクルはこれまで中国に依存してきたが、日本国内においてトータルでリサイクルしていきたい」

――合弁パートナーの中国2社はどのような事業を進めてきたか

水谷社長「三衆物産はこれまで雑品スクラップを月間4000トン輸出していたが、基本的には加工までを手掛けておらず、選別後に輸出するスタイル。中国で雑品スクラップを受け入れてくれた両社と組んで技術を投入し、日本で加工する。三衆物産としては雑品スクラップを集荷して合弁新会社に供給する立場に変わりない。浙江長青再生資源は寧波市で最大手。欧米から雑品スクラップをコンテナで輸入する事業が主体。設備も導入し、モーターや被覆銅線などを得意としている。一方、台州市の浙江海能金属は三衆物産と一番長い付き合い。雑品スクラップが主体で、雑品から発生するプラスチック加工も得意とする」

――中国企業2社は日本で組むパートナーとして 三衆物産をどう評価しているか

池董事長「三衆物産とは長年にわたってパートナーシップを組み、ウイン・ウインの関係を構築してきた。中国は雑品スクラップの輸入を禁止するが、中国の加工拠点を日本に移すことで、大きなビジネスチャンスと可能性があり、合弁新会社が高水準の収益を確保できると確信している」

張董事長「90年代初めから日本との取引をスタート。当時は毎月1万トンの雑品スクラップを日本から輸入していた。05年を境に欧米からの輸入に切り替え、被覆銅線やモーターを中心に年間25万―30万トンを取引している。中国には大きな市場と需要があり、中国向けで輸出できるものを多く作っていく。三衆物産と手を組むことで、収益拡大を図っていく」

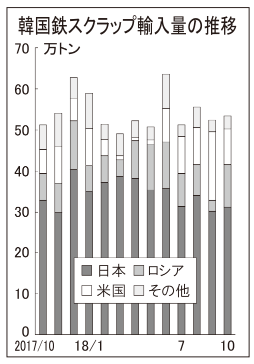
――従業員は何人を予定しているのか

水谷社長「従業員は3人でスタートし、中国から技術者の企業内転勤、現地採用を含めて、将来的には50―60人まで増やしていく」

韓国鉄スクラップ輸入

2カ月ぶり増53.5万トン

10月、ロシア産大幅伸長



韓国の税関統計によると、2018年10月の鉄スクラップ輸入量は53万4727トンで前年同月比4・3％増と2カ月ぶりプラスとなった。前月比では1・9％増となり、2カ月ぶりに増加した。輸入量が60万トン台を下回ったのは4カ月連続。

輸入元別で見ると、日本が31万2276トンで前年同月比5％減（前月比3・6％増）、米国が8万8357トンで同54・5％増（同47％減）、ロシアが10万2647トンで同55・9％増（同3・67倍）、その他は3万1446トンと同48・5％減（同10・8％増）となった。

18年10月は最大の輸入元である日本が前年同月比で減少、前月比では増加した。現代製鉄は日本産鉄スクラップ輸入に関して7月下旬以降、商談が実質的に停止。新断スクラップなどは一部のシッパーらと個別交渉を継続中という。現代製鉄は韓国国内の在庫が高い水準で推移しており、H2スクラップの購入意欲が減退している状態にある。

米国からの輸入は前年同月比で大幅に増加したものの、前月比では大幅に減少している。一方、ロシアからの輸入は前年同月比、前月比ともに大幅増となり、韓国ではロシア産鉄スクラップの存在感が一段と高まっているようだ。

また、中国からの輸入量は326トンとなり、前年同月比は98・9％減、前月比では43・2％増となっている。

ビレット 9月輸出

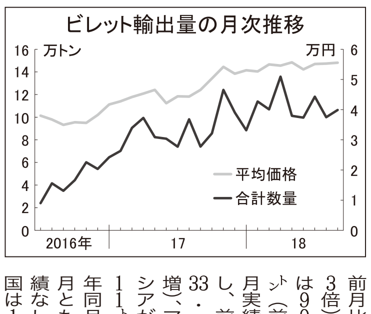
2カ月ぶり10万トン超

平均単価5万5541円に上昇

財務省の貿易統計によると、2018年9月のビレット（鋼片）輸出量は10万6361トンと前月比6・4％増、前年同月比43・8％増となり、2カ月ぶりに10万トン台となった。平均単価はトン当たり5万5541円で前年同月比9010円高、前月比284円高。

主な輸出先別では、韓国が2万4917トン（前年同月比48・3％減、前月比18・9％増）、台湾は3万4261トン（前年同月比2・4倍、前月比17・5％減）となった。

その他の輸出先の実績について、フィリピンは1万5823トン（前年同月比2・5倍、前月比6・6％増）、中国が1万1149トン（前年同月比3・2倍、前月比2・3倍）タイは9912トン（前年同月実績はなし、前月比33・3％増）、マレーシアが9911トン（前年同月、前月ともに実績なし）、英国は1791トン（前年同月比1・9倍、前月実績はなし）、米国は2111トン（前年同月比17・2％増、前月比60・8％減）となっている。

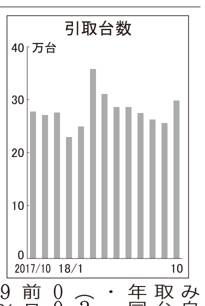


日刊産業新聞ネット版 http://www.japanmetal.com

使用済み自動車引取29.8万台に増

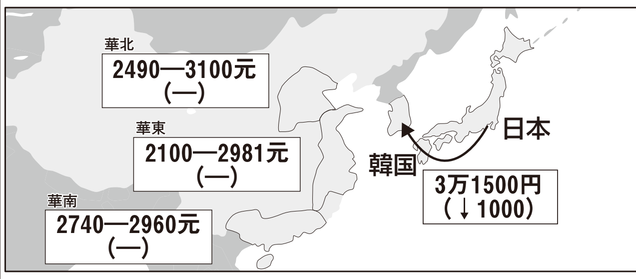
JARC10月

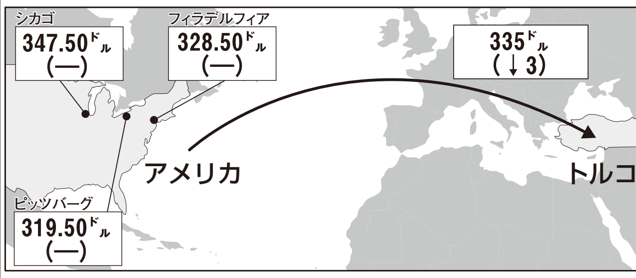
自動車リサイクル促進センター（JARC）のまとめによると、2018年10月の使用済み自動車引取台数は前年同月比7・6％増（2万1000台増）、前月比16・9％増（4万3000台増）の29万8000台となった。



鉄スクラップ国際相場動向

※米国からトルコ向けはＣＦＲ／ＨＭＳ、日本から韓国向けはＦＯＢ／H2（いずれもトン当たり）、中国は重型スクラップ（ＨＳ相当）元／トン、カッコ内は前週比





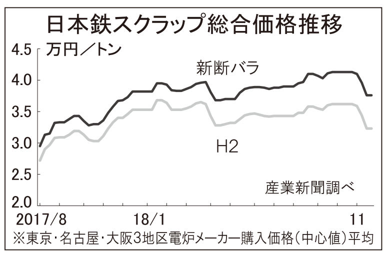
日本産 商談進む

■概況＝冬場に向けて米国鉄スクラップ相場の値上がりが予想されるほか、米国の主要向け先となるトルコで製品市況が強基調で推移している。一方、中国の鋼材市況悪化などにより、鉄スクラップ市況についても先行き不透明感も強い。「米中貿易摩擦が影響しているだけに底値が見えにくい展開」（商社）。

アジア市場では国内相場が続落した日本の鉄スクラップ価格の割高感が解消され、「韓国やベトナム向けにFOBトン当たり3万2500円前後で商談が進んでいる」（シッパー筋）という。

日本鉄スクラップ総合価格

11月4週



※東京・名古屋・大阪3地区電炉メーカー購入価格（中心値）平均

日本鉄スクラップ総合価格（22日、3地区炉前平均、産業新聞調べ）は、11月4週時点でH2がトン当たり3万2300円、新断スクラップが3万7600円でともに前週比横ばいだった。ドル換算（TTS114・09円）ではH2が同1・38ドル高の283・11ドル、新断が同1・61ドル高の329・56ドルとなった。

H2、新断とも横ばい

■東京＝関東地区メーカーの鉄スクラップ炉前購入価格は、26日時点でH2が同3万3500―3万3500円前後、新断バラは同3万6000―3万7000円前後。地区湾岸価格はH2がFASトン2万9000―3万500円前後、新断バラが同3万7000―3万7500円前後だ。

地区市況は東鉄・宇都宮が23日入荷分から買値をトン500円引き下げ、地区メーカーもこの動きにおおむね追随したことで、先週末に続落。一方、湾岸価格は高値がFASトン500円修正された。先週も主要埠頭は集荷意欲が低迷し、荷止め・荷制限が散発した。

■名古屋＝地区電炉炉前購入価格は前週比トン500円値下がり。指標品でトン3万2500円前後、新断で同3万7000―3万7500円前後となっている。

地区内は続落展開が継続。三河地区における製鋼トラブルに伴う一部メーカーの荷止は品種限定で解消されており、荷動きは平常化しつつある。

ただ、普通鋼電炉メーカーでは依然、荷制限も散見されている状況から底入れには至っておらず、目先は需給ともに底値を探る展開。

■大阪＝地区電炉メーカーの鉄スクラップ購入価格はH2でトン3万1000―3万1500円前後、高値トン3万2000円前後、新断スクラップでトン3万7000―3万7500円前後、一部高値トン3万8000円前後。東京製鉄主導の鉄スクラップ購入価格引き下げに対し、地区電炉メーカー各社が値下げ追随するなどの市況軟化が続いている。

一方、市中では「国内では年末年始に向け、輸出向けは価格競争力が戻ってきたことによる底値探りの動きも出始めるのでは」（ヤード筋）との声もある。

※日本鉄スクラップ総合価格は、東京・名古屋・大阪3都市の電炉炉前価格（産業新聞社調べ、日刊産業新聞市中鉄スクラップ相場欄参照）を平均化したもの。

主要電炉鉄スクラップ購入価格

（18年11月26日調べ）

		H2ベース	決済条件
東京製鉄・宇都宮		33,500	手形
東京製鉄・田原	陸上	32,500	手形
	海上	32,500	手形
東京製鉄・岡山	陸上	32,500	手形
	海上	32,500	手形
東京製鉄・高松	陸上	31,500	手形
	海上	31,500	手形
東京製鉄・九州	陸上	34,000	手形
	海上	34,000	手形
大同特殊鋼		27,000	手形
王子製鉄		29,000	契約納入
トピー工業・豊橋		31,500	現金ベース